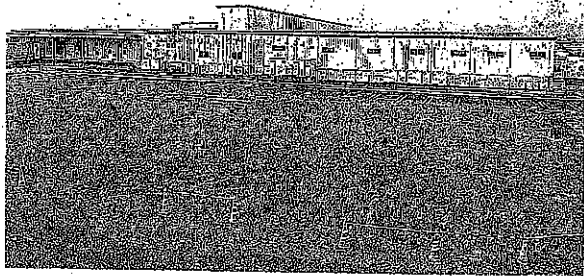


鶏卵生産販売のフュージョン (都城)

液卵工場新設へ

鶏卵生産・販売のフュージョン(都城市、赤木八寿夫社長)は17日、本社敷地内に液卵工場を新設し、来年6月から出荷を開始することを明らかにした。共働き世代の増加や高齢化により加工・冷凍食品の消費が伸びることで、液卵需要が増えたと判断した。生産量は南九州最大の1日約30ト。九州内の食品加工会社などに販売する計画。



フュージョンが新設する液卵工場の建設予定地―都城市

南九州最大日産30ト

同社が液卵工場を運営するのは初めて。敷地面積は約6千平方メートル。工場は2500平方メートルの鉄骨パネル式の1階建て。割卵機3台で、1日当たり最大50万個分の卵を処理することができると見込んでいる。また、卵の殺菌などの衛生管理については最新機器を導入。充填(じゅうてん)機は、外気に触れずにビニール袋に注入できる無菌注入方式を国内で初めて採用した。

卵は同社のグループ採卵場から調達するほか、これまで県外の大手加工会社に販売していたひびが入った卵や規格外品を自社で活用する。投資総額は約17億円と見込み。

また、同社は事業統合で合意していた岡崎鶏卵グループ(都城市、特別清算手続き中)について、4月に吸収分割の手続きを完了した。岡崎鶏卵宮崎店の事務機能をフュージョンに集約。宮崎、延岡、都城市内の販売拠点と宮崎、都城市内の加工施設は維持する。

赤木社長は「より安全でより高品質の商品を提供する。岡崎鶏卵グループの加工施設への設備投資も行い、販路も維持したい」と話した。

フュージョンは採卵鶏ひなの生産販売を行うアミューズ(日向市)のグループ中核会社。グループ全体で採卵鶏250万羽を飼育する九州最大級の採卵養鶏の総合企業。2018年3月期の売上高は前期比22億円増の約11.5億円を見込む。

(栗山貴行)

赤木社長は「コンビニの食品のほか、パンやケーキの加工場などで液卵需要は伸びている。衛生基準や労働環境など、世界に通用する工場にする」と意気込みを語った。